

亀岡市が天然砥石や薬草チヨロギを中核に宮前町の市交流館を「匠ビレッジ」として整備する動きを本格化させている。先月19日には近藤誠一・元文化庁長官が施設を見学し、地域活性化への狙いなどを聞いた。

匠ビレッジ 整備本格化

市は、国の地方創生加速
一シヨン・匠ビレッジ」事
業の拠点となる「森のステ

亀岡 元文化庁長官視察



ーションかめおか」を10月下旬にオープンさせた。

施設を訪れた近藤氏は桂川孝裕市長や日本研ぎ文化振興協会、NPO法人チヨロギ村関係者の案内で砥石の歴史や刃物の切れ味を間近にし、チヨロギによる今後の活動計画などに熱心に耳を傾けた。

訪問に先立つ同日に、近藤氏は南丹市で府が主催した「匠ビレッジ」行事に出席。講演で「匠が集まった丹波の魅力の世界に発信すべき」と語った。

亀岡市観光戦略課によると、森のステーションは先月27日で工事のためいったん閉鎖し、来年4月にリニューアルオープンする。来年度に施設の機能をさらに充実させる計画を立案中だという。
(秋元太一)

砥石や薬草 発信拠点に

天然砥石やチヨロギによる
地域活性化に関心を示す近
藤氏(右)＝亀岡市宮前町・
森のステーションかめおか